事例研究報告

課題従事行動を増加することにより，指吸い行動の代替または減少を目指した取り組みについて

生徒の実態

- 中学部３年生　女子　自閉症

- CDで音楽（童謡等）を聴くこと，DVDを観ること（「おかあさんといっしょ」等）が好き。感覚グッズ（噛むことができるもの（プラスチック板やプラスチック製のチェーン等））を持って過ごすことが好き。
- 本人にとってわからない活動や待機時間が長い活動，気温や湿度が高い時に不安定になり，離席して大泣きしたり，走り出したりする。
- 生活の中で注視する場面がほとんど見られない。足元を見ずに階段の上り下りをしたり，手元を見ずに作業（プットイン課題）を行う。
- 音楽を聴いたりDVDを観たりしている時，好みのものでないと機嫌が悪くなり大泣きする。近くにあるものを投げたり，近くにいる人に他傷（たたくなど）をすることがある。
- 要求はクレーンハンドで行うことができる。CDで音楽をかけて欲しい時は，カードを渡すことで教員に要求できるが，聴きたいCDやDVDを認識して，二者択一等の自己選択をすることはできない。

教員の考え

「不安時や手持ち無沙汰な場面に見られる指吸いの行動を，本人に応じた場や年齢にふさわしい行動に切り替えれるようになってほしい。」

アドバイザーからの助言

- 「やめさせたい行動」ではなく，「伸ばしたい行動」に変えていきましょう。

- 見ることを怠ることで，ロッキングや指吸いなどの常動行動で刺激を求めるようになり，行動が増えています。

- 課題学習において，できることを増やすプラスの方向に考えていき，注視する課題を継続することで，生活の中で注視できる場面が増える可能性が大きくなります。

指導目標の見直し

① 教員の指先に貼ったシールを注視したまま指で押し，決められた位置に貼る ことができる。

② １／２に分割された絵カードを，注視して合わせることができる。

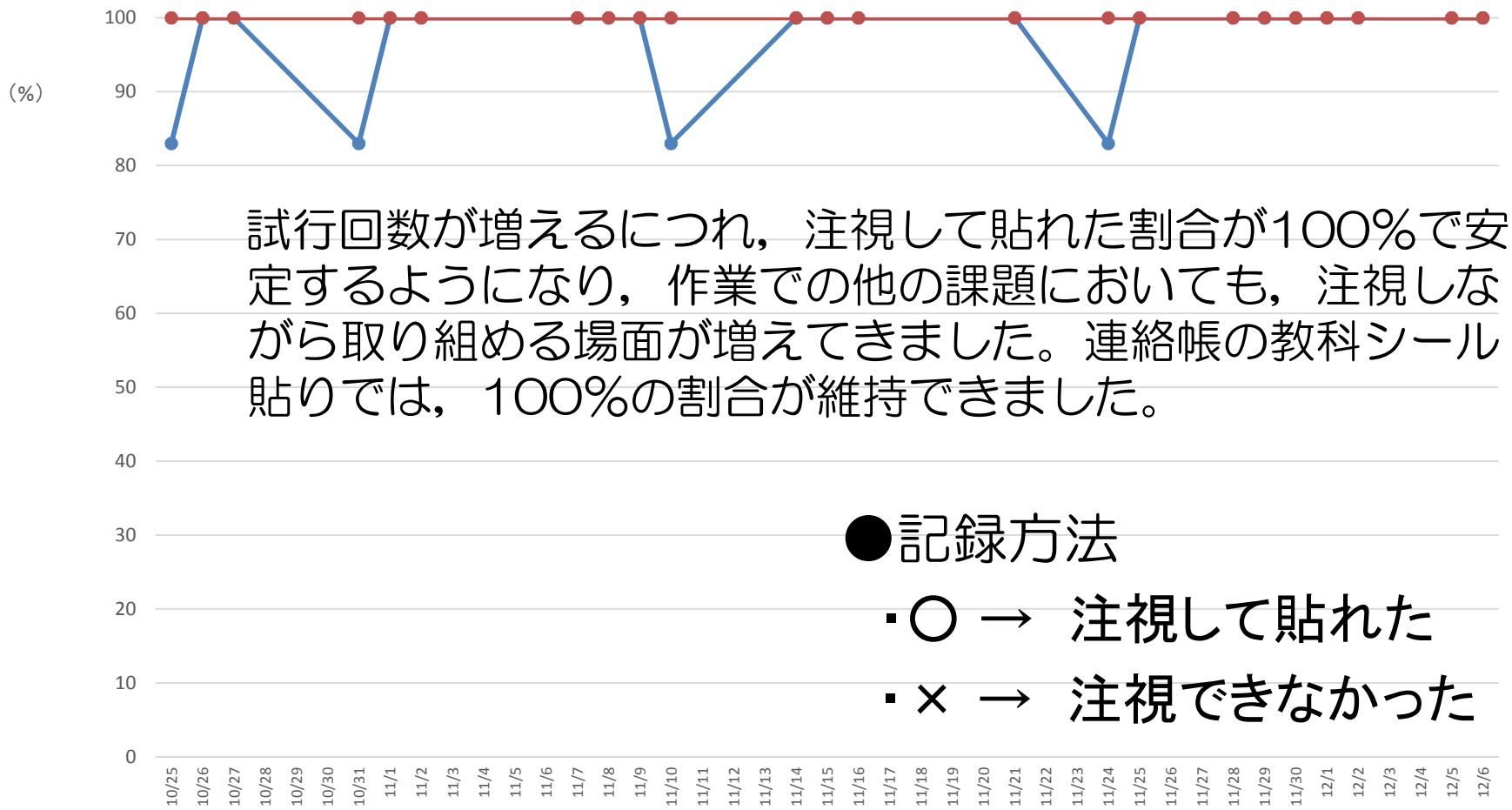
③ 感覚グッズを持参することで，指吸いなしに移動することができる。

指導1:シール貼り課題

指導手続き

- 直径1㎝の円形シール6枚と，シールと同じ大きさの円を6つ描いた紙を用意する。
- 教員は円の真上にシールがくるように指先で持ち，「Yさん」と呼名して注意を向ける。
- 本人がシールを注視したまま指で押し，枠内に貼ることができたら「すごい。マル」と笑顔で称賛し，６枚のシールが貼れたら，すかさずトークン（ベビーチョコ1粒）を手渡す。
- 注視できていなければ，すぐさま再試行する。
- 回数を重ねるにつれ，少しずつ紙面から教員が持つシールまでの距離を離していく。
- １セッションに2回実施する。

指導1の成果



試行回数が増えるにつれ，注視して貼れた割合が100%で安定するようになり，作業での他の課題においても，注視しながら取り組める場面が増えてきました。連絡帳の教科シール貼りでは，100%の割合が維持できました。

●記録方法

・○ → 注視して貼れた

・× → 注視できなかった

	10/25	10/26	10/27	10/31	11/1	11/2	11/7	11/8	11/9	11/10	11/14	11/15	11/16	11/21	11/24	11/25	11/28	11/29	11/30	12/1	12/2	12/5	12/6
シール貼り	83	100	100	83	100	100	100	100	100	83	100	100	100	100	83	100	100	100	100	100	100	100	100
連絡帳	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

指導2：絵合わせ課題

指導手続き

- １／2に分割された絵カードを１組用意する。
- 教員は１／2に分割された絵カードを，「Yさん」と呼名しながら30cmほど左右に離し，机上に置く。
- 本人が注視したまま，左右に離れた絵カードを合わせることができたら「すごい。マル」と笑顔で称賛し，３回できればすかさずトークン（ベビーチョコ１粒）を手渡す。
- 注視できていなければ，すぐに再試行する。

記録方法と記録

【介入１】10/25～１１/２８

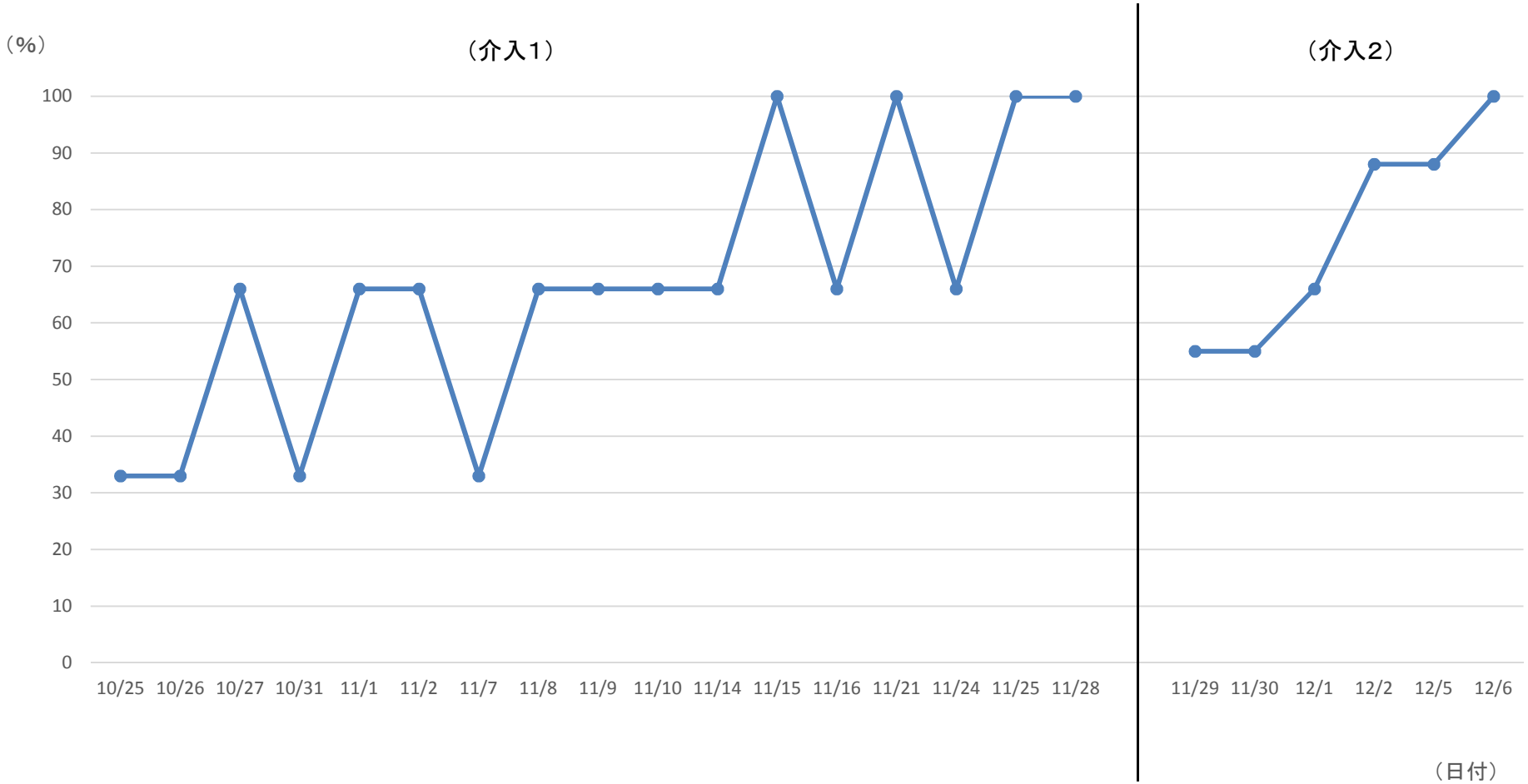
- ○ → 注視してできた
- × → 注視できなかった
- １種類のカードで３回試行

【介入２】１１/２９～12/６

- 記録方法は介入１と同様に行う。
- ３種類のカードで，各３回ずつ試行。

指導2の成果

回数を重ねるにつれ，高い確率でできるようになってきました。



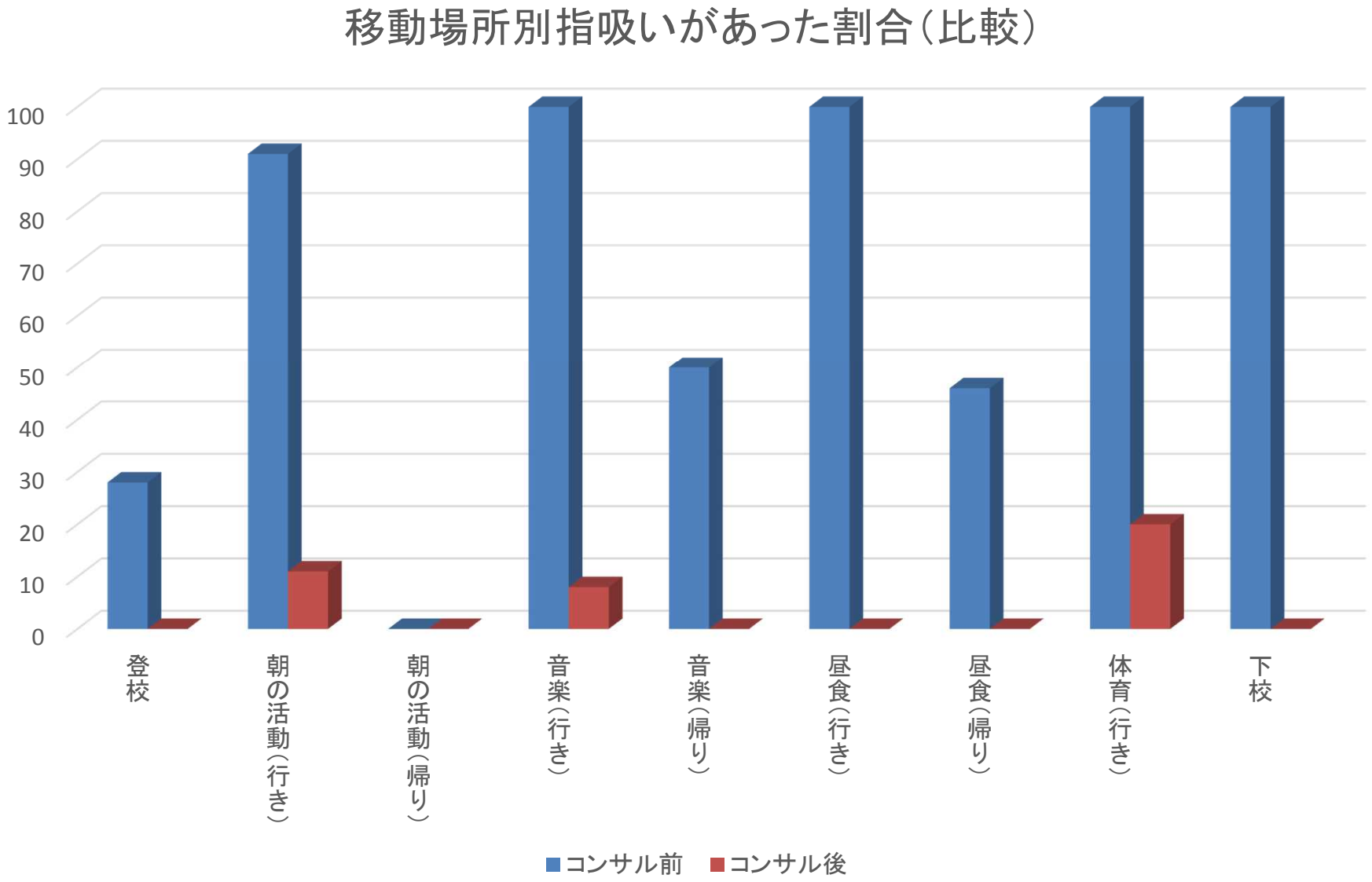
指導3：感覚グッズを使っての教室移動

指導手続き

- 教室移動をする際に，感覚グッズを使用する。
- 感覚グッズの種類と量を減らしていき，代わりに四つ折りのハンドタオルを加えた。
- 「登校」，「朝の活動」，「体育」，「昼食」，「音楽」，「下校」の各場面を記録した。

指導3の成果

感覚グッズの使用により，指吸いのなくなった場所がありました。



ここが成功のポイント

○　注視して課題が達成できた時にのみ得られるトークンにより，本人のモチベーションや持続力が高まった。

○　「見る」機会が増えてきたことで，視覚的な刺激が入ってくるようになったため，他の刺激を必要とすることが減った。

○　エラーレスの指導で，できる課題が増え，生活の中で活かせた。